⑩日本国特許庁

⑩特許出願公開

公開特許公報

昭52-128937

(1) Int. Cl². B 05 D 1/14

B 05 D 1/04

識別記号

砂日本分類24(7) E 21247 A 303

庁内整理番号 7154-51 6636-35

砂公開 昭和52年(1977)10月28日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全**5** 頁)

砂静電植毛方法

②特

願 昭51-46254

愛出 願 昭51(1976)4月22日

⑫発 明 者 堀木清之助

東海市南柴田町ホの割213番地

の 5 名古屋油化学工業株式会

社内

同 仲晨三郎

東海市南柴田町ホの割213番地

の 5 名古屋油化学工業株式会 社内

13.7

⑫発 明 者 伊藤邦矩

東海市南柴田町ホの割213番地 の5 名古屋油化学工業株式会

社内

⑪出 願 人 名古屋油化学工業株式会社

東海市南柴田町ホの割213番地

の5

砂代 理 人 弁理士 宇佐見忠男

聖 蘇 撃

1.発明の名称

砂缸植毛方法

2.特許請求の範疇

務材に結集剤としてエポキシ反応型合成型語↓ 多価アルコールのグリシジルエーテルとの混合 物を始布し、数益布面に短線離を砂電力により 付着させることを特象とする砂電槽毛方法

8.発明の詳細な説明

本発明は取合良好にしてかつ結 着力の大なる権 毛物を 得ることを目的とするもので、結 着剤とし てエポキシ反応型台成樹筋と多価 アルコールのグ リシジルユーテルとの混合物を用いることを骨子 とするものである。

以下に本発明を軒類に説明する。

本発明に云りエポキシ反応型合成機筋とは、フ ミノ茲、酸フミド基、カルポキシル基、水酸基、 エポキシ基、イソシアナート基 の多価アルコー ルのグリシジルユーテル(以下単化グリシジルコ 一テルと云う)に含まれるエポキシ基と反応可能 な官能基を含む合成樹脂を云い、数合成樹脂はビ ニル類合体の場合には之磐官能基を含む官能性単 盤体と、数官能性単量体と共動合可能なる他のビ ニル単盤体との共動合によつて得られる。

数エボキシ基と反応可能なる官能性単型体を例示すれば例をはジメテルアミノエテルアクリレート、ジメテルアミノエテルアクリレート、ジメテルアミノエテルアクリレート、ジエテルアミノステクリレート、ジエテルアミノアロビルアクリレートを、ジェテルアミンアクリレートを、アクリルアミンド、アクリルアミンド、アクリルアミンド、アクリルアミンド、アクリルアミンド、アクリルアミンド、アクリルアミンド、アクリルアシント、アクリルアシンクリルアミント、ウーへインコート、ウーへインロート、ウーへインファンファンロート、ウーへインファンファンコート、ウーへインファンファンロート、ウーへインファンファンコート、ウーへインファンファンファンファンファンファンファンスクランスを使用することを使用する。

特別昭52-128937(2)

数官能性単位体と共監合可能な他のビニル単位体とは例えばズチレン、カーメテルズチレンジフクリロニドリル、お野ビニル、塩化ビニリデン、熱化ビニル、 ・ 地化ビニリデンジメチルメタクリレートミエテル メダクリロート、ロープテルメタクリレート、150 ニフチルメタクリレート、パーエテルメ

(3)

まとする) 単量体に添加格解してから加熱血合き せる。溶放取合にあつては上記油溶性開始期を用 いてトルオール、キジロールミテモデンデメナル エチルケトン、メチルイソフナルライン、酢酸コ ナル、酢酸カーフナル器の有個電視中化で単量体 を加熱投料して低合させる。乳化取合にもつてに ステアリン最ソーダ、ラウリルスルボン盤シータ、 アルギルベンゼンスルホン酸ソーダ、ポリオキシ エチレンアルキルフエニルエーテル袋のブニギン 毎ラグゴネジ性の乳化剤を用いて水に上記単位体 を乳化させ、過酸酸ガリガス、過酸酸デジャニッ ム、過糖酸ナトリウム等の水溶性配始剤を用いて **加熱撹拌して重合する。駅間重合の場合はカルボ** キシェデルモルロース、アルギン散リーダンポリ アグリルはソーダ、ゼラテン、ポリビニルブルコ - 人場の分数期を用いて上記前着性開始前を発射 した上記単位体を水に分散させ、加熱療料して型

フルコール母の水溶性溶剤中で上記無溶性院 始 列を用いてカルボキシル基を有する年単体を設定 ・ 上記例示は何れも本晃明を限定するものではカ | 12 共和の人には、 12 年代の人によりました。

上記単量体は頻報重合、現化重合をより、 上記単量体は頻報重合、強能重合、現化重合を 一般的差重合方法を用いて重合を与れる。即ち及 収益合化あってはマンマルバーオーンド、ラウ ロイルスニオーシャンランスイドロスーオーシャンファンティックティーを アンテンド等の他格性開始期を 販売量を(以下単に

(4)

して溶液型合を行かい、その後、アンモニア、カセイソーダ、カセイカリ、アミン顕等で中和して 型合体を水溶性に転換させてもよい。 上記のようにして製造された合成樹脂中に官机

上記のようにして製造された合成機器はそのまました。 不移系列をで表彰、むいは異状型を体、超関型合体の場合には有機溶剤等で溶解させ、超級状にしてから多価ブルコールのグリシジルエーテルを添加する。 富士 しくは野鬼気による火化により引火しかいよう上配合成機器は水溶剤、コ

-226-

(6)

特陽昭52-128937(3)

マルジョンあるいはトリクロルエチシントで一ク 男と云きとと母の不動俗前の路板にするのが見す , 上ぐゃ 本発明に云うグリシジルユーテルとロエッ · ドングリスール・プロビレングリコール・グリモ タンドベンタエリスリトでから きりメナリータブ 、上型と警察二分子中に二個以上のOR華東有する。 多態でかってルと例をはてルカリ的様子にデザジ - 早からず塩ンと変原路させて強られるグリンジル このであれてある 8 女材グリングルスピテルローダ 子中には個以上形成せられる。

上記グリシジルユーテルは官能ある有合成型師 - 100単超部(以下単匹部とする)に対してα/ ~30部裕加されるのが設ましい。何となれば」 記範囲以下の含有量においては架模効果が小さく なり、上記領国以上の含有量においては混合物の ずるとライスが短かくなり取扱なにくなったかし 上記範囲以外でも本発明の目的は選挙与れる内与 上配短期は本発明を限定するものではカゾらん 、かくして現合せられたグリングルエーテルとコ ,并十分反应现合感觉顾客含白糖激制化上身素材化

が用いられる。上記名の示は本発明を限定するも OTHEV

節單標毛を行うには上記蓋材上に精養預を迎欠 履形分として50~2008/■勤布する。 単布は がおからでもよい。 結婚剤を設布された基材は三年 世気装留内に入れられ通常サの~3のますの節を 圧をかけ、畑山雄を敷布し和毛する。被毛数会分 一な類様雄を著しるので/30で数分間加熱すれば | 合成製脂中の官能基とグリシジルユーテル中のコ ボキシ基が極めて効率よく反応し架線が生成する。 かくしと耐熱性、耐洗症性に使れ、反合良好にしてなる。 てかつ結案力の書るしく大きな権毛勢が得られる。

機料役、コンデンサー、温度計を関した反応器 化ひの転方を仕込み、73℃3時間の血合を行な い、各番型に及転して膨影分よびまの乳化型合体

さってい キャッカン 神界の命

・砂銀槍毛を行なう。結着剤には所選なれば可塑剤、 。軟化麹、製盤剤のフルギン腫、デンブン、蛋白食、 歡離業勝事体、ロジン、シリコンスマルジョン、 フックス、オゾン労化防止期、酸化防止剤、老化 防止期、防腐筋、紫外線吸収剤、その他の添加剤、 カッポンプラングに炭酸カルシウム、クレーデア 。 みべみ と称の充壌病 、天然 ti A 。 合成 ti A 、 エ が キシ反応型でない他の合成製脂等が混合せられて 15 6

遊材として付扱総数数数を、数数不能を、プラス - デマクスマイルム、ブラステンクス発泡体・ブラ 冬5.2.名で感程量。皮革 5.カラス、胸離器 5.4木材 **隻不事促体ならば如何なるものも用いられる。 垂** 三総維(パイ化)としてはポリスステル系数雄、ポ リピニルブグロール系数線、ポリアもド系数数で 載り塩化ビモル果酸額、ポリ塩化ビニリテン菜 盤 難べずリアクリロニトリル系創植、ポリエチレン 系数雄、ポリプロピレン系数雄、ポリウレタン系 繊維、レーヨン、きュブラ、アセテート、ガラス 銀器等の一般的な磁線の遊覧43~よ軸長のもの

(B)
リープラルアクリレ画ナー タスロロ
、。タスプルフェンテネケスメクリレート 。 as
B - ヘイドロキシエナルアクリレート ま 0 。
アクリグをしょくなった。 こんりょ
アルキルベンゼンスルホン華ソーグ。これの
ポリオキシエグレンアルセルフエニルエーテル 30
2. 過数酸カリウムによる。 こうしょ なんま
100
実施例 2
実験例1と同様な反応着に次の処方を仕込み20
た 6時間の重合後常温に冷却し固形分よのよの乳
化重合体である財料Bを得る。
Service of with the company of the c
メナルメタクリレート スティック 1.40
カープチルビニルコーザメ 300
243
群勝ビニル (1) では、100円 100円 100円 100円 100円 100円 100円 100円
メクタリル 動
4.9 ************************************
グリングルメラクリレート エッテのははなるできる。

特別昭52-128937(4)

以料人

で、次の処方を複合して粘度30000cps/23 での 「類りないを記載される」

ペンタエリスリトールジグリシジルユーテル 5. 0

実施例で

次の処方を配合して粘度 27000cps/2 s での 辺合物でを摂るc

02

の野能圧をかけな5%のナイロンパイルを削毛して被 / 0 0 で 8 分の加熱処理をして相毛物 A を視

突筋例 1 0

混合物 B を基布にロールコーターにより/006/t³ (Wet) の場合で並布し、二級監督製造内で50EVの新提圧をかけ/%のナイロンペイルを和毛して 後/20 に 2分の加熱処理をして補毛物 B を得る、 実施供 1 1

近合称でを恐布にナイフコーターにより2006/k³ (Wet) の割合て並布し、二極電気装留内で40kVの砂電圧をかけなる%のポリエステル磁能パイルを排毛して役/30で/3分加熱処理して排毛製でを符る。

実施例12~

海会中 D を用い実施例らど同なにおぶにながれ 毛し、 / 20 で23 分の加熱処理を行かい 初毛史 D を得る。

爽節祭 1 3

促合転車を用い、基材としてのポリユテレンフ

実施係る

実施例 1 と同様な反応器に次の処方を仕込み、 3 0 C 3 時間の取合数 3 0 S の常報製合体である 試料 C を得る。

カーフテルアクリレート 3000
エナルメタクリレート 235
ユーエチルへキシルアクリレート 3500
アクリロニトリル 500
Bーハイドロキシブロビルアクリレート 25
トリメテルアンモニウムエナルメタクリレートクロライド 200
アクリルアミド 100

实施例 4

次の処方を従合して粘度 23000 cps/2 s での

(L)

プロピレングリコールジグリンジルユーテル 3.

实施例 7

次の処方を混合して粘度 2 4 0 0 0 c ps/2 5 ℃の 混合物 D を 得る。

实施例 E

次の処方を設合して粘度 27000cps/2までの

实施例 9

混合物 A を基布にナイフコーターにより/808/e² (wet) の初合で独布し、二級物気装置内で45kk

03

NSDOCK - 6.6 (852.12856) /

イルムに契照例10と同様に譲布、相毛して80 でコ分の加熱処理をして相毛的 Eを得る。

上記実施例 9~13 により作成した植毛物 A、B、C、D、E は 数色 取扱 監 牢 以 軟 機 に て 300 で 復 超 超 布 を つけた 取 数 子 で ベイル 脱 器 ま で の 回 数 を 適 定 し た 結 泉、 水 を 以 料 に 適 下 し つ つ 行 っ た 場 合 で は 全 以 料 共 6000 回 以 上、 ベークレンを 以 料 に 適 下 し つ つ 行 っ た 場 合 で は 各 飲 利 共 3000 回 じ 上 で あ り、 紙 め て 伊 れ ホ バ イ ル 密 着 性 を 示 す 。

、 特許出顧人 名古里油化学工業株式会社 (代 想 人 字 佐 見 忠 男

1995年 - 1995

・ ・ ので、まっ、客様によりを上去いかま。 る無文は海峡で

0 1.44.0 0 1.44.0

.. 05

医生物缝织

「大学のは、、とのではない。 を、、はは動物を (おき)を選択してはない。 という とばれるといるできない。 かれる はままない。 という とがいるがらい でんしん かんかい かんかい かんかい かんしょう という はまました かんしょう

(1995年) 1996年(1995年) 1996年(1996年) 1996年(1996年) 1996年(1996年) 1996年(1996年) 1996年(1996年) 1996年(1996年) 1996年(1996年) 1996年) 1

特閒鴈52— 128937(5)

And the second of the second o

: ...

Section of the section of

Tay Na A va va va v

Proceedings and the control of the c

-229-

THIS PAGE BLANK (USPTO)